

家事代行など生活総合支援サービスを提供する「クラッシー」社長の植田貴世子さん(徳島市南第三島町)が、事業を思いついたきっかけや、これまでの歩みをまとめた本「あなたの街のコンシェルジュ」を出版した。ワークライフバランス(仕事と生活の調和)実現をサポートする草分け企業の経営者として、創業以来二十三年間、生活者重視の信念を貫いてきた植田さんの熱い思いがこもった一冊だ。

「暮らしの中のあらゆるニーズに、柔軟に対応するのがコンシェルジュサービス。私たちは、人が人らしく生きるために、家族と共にしなやかに生きるために何が必要かを最重視して、今のサービスの形にたどり着きました」。植田さんは、著書を通して訴えたかったことを穏やかな口調で話す。

植田貴世子さん(クラッシー社長)出版

あなたの街のコンシェルジュ



「誰かの役に立っているという充実感と喜びで事業を展開してきた」と話す植田さん—徳島市内

生活者重視の信念貫く

米し、四年間、企業で働いた経験を持つ。アメリカの女性たちは、仕事を意欲的にこなし、家庭を維持し、おしゃれや趣味を楽しむという、現在のワークライフバランスを、既に模索していた。

そんな女性の社会進出を目の当たりにしていただけに、帰国した植田さんは、日本の男性中心の経済至上主義社会に愕然とした。主婦は、子どもを抱えて家事をするだけ。仕事人間の夫は、全く話を聞いてくれない。これでは、妻はノイローゼになる。仕事を持つ女性性は、結局、家事や育児のすべてを引き受けるしかない。日本の女性はかなり大変な状況だった。

「妻たちに、母たちに、週に一回でも自分の時間を持つてほしい。少しの時間でも、家事や育児から自分を解放してほしい。そう願って始めたのが、英語を付加価値とした保育サービス

『ステラ』でした」。一九八六年、クラッシーの前身が誕生した瞬間だ。三十一歳の三歳の息子のママだった植田さんの、主婦からの起業だった。

以来、保育という視点で社会を見渡しながら、経済社会の中で過小評価されてきた生活価値の大切さをア

「生活のさまざまな場面で、私たちのサービスを必要としてくれることが実感できた。誰かの役に立って



困ったこと 全方位で対応

いるという充実感と喜びが確固たる自信につながり、私たちのサービスを、新しい価値として誇りに感じられるポリシーができた」

「将来は、電気、水道、ガス、コンシェルジュと位置づけられ、私たちのサービスが、暮らしと切っても切れない無形のライフラインになっていくと信じています」。

「あなたの街のコンシェルジュ」は西日本出版社刊。A5変形判、八〇〇、八百四十円。

「主婦からの起業を応援する会」参加募る

来月26日、徳島市

クラッシーは6月26日午前11時から午後1時半まで、徳島市中洲町のザ・パシフィックハーバーで「主婦からの起業を応援する会」を開く。

既に県内で起業している主婦らの発表やインタビューなどがある。ランチを食べながらの懇親会では、質疑応答も受け付ける。会費5000円(ランチ付き)。問い合わせは、クラッシー〈電088(623)6391〉。